信州から考える絵画表現展に高見澤君が

上原 昇（２組）

２月１日から、長野県立美術館（長野市箱清水 1-4-4）でちょっと変わった絵画展が開催されます。その名も「信州から考える絵画表現の５０年」と題するもので、戦後５０年の間、既存の美術団体に属さず、自由に活躍した信州ゆかりの作家１８名による展覧会です。１８名の顔ぶれには池田満寿夫（1934 年－1997 年、長野市出身）や草間彌生（1929 年－、松本市出身）といった著名な人も入っています。その中で同期の高見澤文雄君（８組）が選ばれ出品しています。（添付の長野県立美術館 HP を参照）
https://nagano.art.museum/exhibition/exhibit2024_painting

以下は高見澤君と多摩美大で同窓の澤崎健一君（３組）による同展の解説とコメントです。

「今回の特別企画展は、1945 年から 70 年代前半にかけての第 1 章と、70 年代後半から 1995 年までの第 2 章の 50 年間、信州ゆかり作家たちの絵画表現に焦点を当てている。高見澤の作品は 1990 年前後に制作された《網の波、波の網シリーズ》の 2 作品が第 2 章に展示されるという。企画展のサブタイトルの「描くことをやめない。」コンセプトに彼の作品の根底のひとつ「繰り返し」の追求がマッチングしたのだと思う。18 名の中には世界的にも評価が高い作家の作品もある。それらと同列に高見澤の作品が展示されるのは同期としても大変うれしく誇らしい。」

3 月 1 日（土）の 13 時 30 分からは会場で高見澤君のアーティスト・トークが予定されています。特に地元の同期諸氏は足を運んでください。なお、展覧会は４月６日(日)まで、水曜日は休館です。

2022 年 5 月、高見澤君の個展にて、
左から二人目が高見澤君、右端が澤崎君

（2025 年 1 月 27 日記）　　以上